

認定こども園おちの子

研 究 同 人

園長	田村 香	会計年度任用職員	小崎 りえ
副園長	吉本 ちあき		井上 直美
主任保育教諭	大崎 三佳		北村 恭世
保育教諭	大原 真奈美		田邊 千春
	岡田 理香		大原 香代
	原田 公		寺岡 麻未
	高橋 亜由美		片岡 香
	西田 沙耶花		徳弘 小夜
	北平地 みゆき		金子 奈々葉
	山下 美穂		田中 なつみ
	岡林 美佳		山崎 留美
	西森 愛未		西本 由美
	和田 亜子		(子育て支援センター)
	西川 彩乃	会計年度任用職員	大原 真由美
	堀内 葉月	(調理員)	齋藤 京子
	刈谷 絵里奈		
	吉村 里美		
	能勢 亜梨沙		
	國澤 あみ		
	中平 真紀		
	(子育て支援センター)		
調理員	原田 峯香		
	篠原 有紗		
	大原 圭		

1. 保育方針

〈教育の理念〉

子どもにとって最もふさわしい生活の場を保障し、生きる力の基礎を養うとともに、
子どもの最善の利益を守る

〈めざす子ども像〉

- ① 健康で安全な生活ができる子
- ② 友だちを大切にし、思いやりのある子
- ③ よく見、よく聞き、よく考えて行動できる子

〈教育の重点目標〉

- ① 子どもの「楽しい」や「やりたい」などの意欲を大切にする
- ② 社会を生き抜く力の基礎となる非認知能力「自分を高める力」「自分と向き合う力」
「他者とつながる力」の育成を目指す

〈保育の基本姿勢〉

- ① 一人一人の心に寄り添う保育
- ② 一人一人をよく理解し、その子にあった援助を工夫する
- ③ 家庭との連携を大切にし、保護者と共に育てる保育

〈一日の流れ〉

※月 金曜日	7:30	開園	必要に応じて長時間保育
	8:30	登園	健康観察 所持品の始末 連絡帳出しなど
	9:30	あそび	午前のおやつ（0・1・2歳児）
			自ら選んで遊ぶ活動 クラスや園全体で行う活動 課題をもって取り組む活動
	11:30	昼食	手洗い 昼食準備 昼食 歯みがき
	13:00	午睡	午睡準備（排泄 着替え） 午睡
	14:30	起床・あそび	身支度（排泄 着替え） 自ら選んで遊ぶ活動
	15:15	おやつ	おやつ準備 おやつ 降園準備
	16:00	降園	部屋まで迎え（0・1・2・3歳児）
			正門まで迎え（4・5歳児）
	18:30	閉園	必要に応じて長時間保育 又は一時預かり保育（17:30まで）
※土曜日			1号認定は休園日 2・3号認定は自由登園（必要に応じて12:30まで）

〈クラス編成〉 (令和6年)

年齢	0歳児	1歳児	1歳児	2歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
クラス	ひよこ	りんご	もも	みかん	いちご	りす	いるか	きりん	8クラス
園児数	12	7	7	12	14	21	20	22	115名
男	7	3	3	4	5	13	8	13	56名
女	5	4	4	8	9	8	12	9	59名

〈園行事〉

月	各月の行事
4	おこまり保育 入園式 家庭訪問 総合避難訓練 園小連絡会
5	園小中委合同避難訓練 春の遠足 フッ素洗口説明会(4歳児) 内科健診 歯科検診 交通安全教室 クラス懇談会(幼児組) 検尿
6	愛園作業 プール開き 誘拐防止教室 芋植え 起震車体験 もぐもぐモーニング(5歳児)
7	夕涼み会 プール参観
8	特別保育 プール納め
9	祖父母参観 就学時健診(5歳児)
10	運動会 秋の遠足 親子野球教室(5歳児) 横倉山探索 園小交流(5歳児)
11	マラソン始まり 文化祭出品 福祉大会 園外散策 文化事業 防火パレード 芋掘り 内科健診 歯科検診 総合避難訓練
12	お店屋さんごっこ サンタ来園 園小交流(5歳児)
1	おめでとう会 不審者対応訓練 新入児面接
2	豆まき 生活発表会 個人懇談(5歳児) クラス懇談会(2歳児) 小学校一日入学 園小交流会(5歳児)
3	お別れ遠足 卒園式 おこまり保育(年長児)

※ 誕生会・避難訓練・なかよしひろば…毎月・園庭解放…毎月

※ 安全点検 …奇数月

※ 身体測定…年間4回(幼児組) 年間6回(乳児組、3歳未満児)

※ バス散歩…年間計6回(幼児組)

※ ALT訪問…毎月(4・5歳児)

2. 研究への取り組み（幼児教育研究協議会資料）

（1）研究にあたって

本園は、今年度4月より保育園から幼保連携型認定こども園になった園である。3歳児21名、4歳児19名、5歳児22名の計62名で、各クラス1人ずつ担任・副担任・支援員をおき教育保育にあたっている。近隣には小中学校があり、園小中それぞれ1校である。以前より、互いの公開授業・公開保育に参加して見合うことや小学校とは年間3回の交流活動を行っており、その都度打ち合わせをし、昨年度の反省も踏まえながら活動している。毎年子どもの姿が違ふ為、反映できる部分など話し合いを重ねる中で教諭同士の関係性もでき、交流の打ち合わせや振り返りでは気になる子の姿も伝え合っている。

今年度5月、小学校のスタートカリキュラム授業を園から2名が参観し協議にも参加した。また、小学校の運動会総練習に招待してもらったことで、子ども達は小学校への期待を膨らませ、園に帰ってきてからも、かけっこをしたり1年生の課題でもあるフラフープを真似て楽しんだりする姿に繋がった。その後、6月に行われた5歳児園内研修の協議に小学校教諭2名の参加があり、遊びの様子だけでなく植物の栽培活動や小学校の生活科についての話もでき、よりお互いを知ることができた。今回植物栽培の話をする中で、園小での取り組みに共通した課題が含まれていることも分かった。そこで尚一層、園と小学校との相互理解の促進に繋げていく為に、どのような取り組みをしていくとよいのか考えることにした。

（2）研究の取り組み

月	日	曜	内容	活動・取組	場所
4	30	火	スタートカリキュラム公開授業	1年生の公開授業参観・研究協議	小学校
5	1	水	園小連携部会①	テーマ・活動内容など	小学校
6	5	水	こども園公開保育	5歳児公開保育参観・研究協議	こども園
7	29	月	園小中合同研修会	菅原裕子先生「子どもの心のコーチング」	町民会館
9	17	火	交流活動①打ち合わせ	ねらい・日程確認・グループ決めなど	小学校
10	16	水	交流活動①・振り返り	フラフープで仲良くなろう	小学校
11	29	金	こども園公開保育	5歳児ブロック別研修会	こども園
12	2	月	交流活動②打ち合わせ	ねらい・日程確認・グループ決めなど	小学校
12	17	火	交流活動②・振り返り	昔遊び	小学校
1	14	火	園小連携部会②	今年度の成果と課題を持ち寄る	小学校
1	28	火	交流活動③の打ち合わせ	ねらい・日程確認・グループ決めなど	小学校
2	19	水	交流活動③・振り返り	1日入学・おもちゃフェスティバル	小学校
3	4	月	園小連絡会	年長児引継ぎ	小学校

(3) 研究事例

こども園で6月に5歳児公開保育を実施

研究協議には小学校から2名参加(1年担任と校長先生) 子どもの気付きの部分の見取り方や園での活動内容を伝えることができた。野菜や植物の栽培活動について話し合い、お互いを知るきっかけになる。他にも保育内容を伝えていく方法を考えた。

●そこでドキュメンテーションを作成し見てもらったり、小学校の生活科の授業内容を教えてもらったりする事にした。

(生活科指導案・教科書参考)



(4) 研究内容

《夏野菜を育てよう》 栽培活動のねらい・内容(月案から抜粋)

- ★夏野菜の苗を植えるための土作りを行い、育てるために必要な準備があることを知ったり、植えることを楽しみにしたりできるようにする。
- ・草花や野菜の成長を楽しみにしながら世話をし、変化に気付いて関心をもつ。
- ・栽培物の生長に関心をもち、収穫を楽しんだり給食で調理してもらい食べたりする。
- ・夏野菜の生長に気付き、収穫を楽しみにする気持ちを育てながら、食への関心を高めていく。

小学校教諭に見てもらったドキュメンテーション

《夏野菜を育てよう》

栽培活動のねらい・内容(月案から抜粋)

- ★夏野菜の苗を植えるための土作りを行い、育てるために必要な準備があることを知ったり、植えることを楽しみにしたりできるようにする。
- ・草花や野菜の成長を楽しみにしながら世話をし、変化に気付いて関心をもつ。
- ・栽培物の生長に関心をもち、収穫を楽しんだり給食で調理してもらい食べたりする。
- ・夏野菜の生長に気付き、収穫を楽しみにする気持ちを育てながら、食への関心を高めていく。

園での取り組み

夏の収穫の終わりにまで育ててほしい姿

初めは野菜を植える。カールーゴに何の野菜を植えるか相談し、地域の商店(おもしろ)に買いに付た。(自分達が選んだ)今年度はナス、ピーマン、トマト、オクラを栽培している。

・当分の間は1つとして毎日子どもたちがジョウロを使い、水やりをしている。(友達と協力し合う) (水は葉っぱにかけずに、土にかけろ)

・子どもの気付きが花が咲いた、実がなった、実の色が変化した。

収穫後

大きくなった野菜を収穫し、調理員さんに持っていき調理してもらおう。おいしくつくってください。(収穫を喜び、自分の野菜で食べる) いくつ収穫できたかをクラスのみんなが分かるように実を作り、野菜の姿と形を合わせながらラベルを貼る。

調理員さんは子どもたちが楽しく食べることができるよう、イラスト付きのメニューをくれた。子どもの気付きがトマトが赤くなった・ナスが大きくなって実が赤い。

(日々観察することで、大きさをや色などから収穫時期が分かるようになる)

調理員さんに持っていきよう!

給食に自分たちが収穫した野菜が調理されて出てくる。(サラダに入っていた、カレーの岸にトマトが混入!) 採りながら楽しく食べる。

子どもたちが園を歩く、子どもの気付き

ここにもあったよ!おいし、すっぱい!

調理員やピーマンを食べてみる!

子どもたちも自分達が育ててきたことで、食べてみようとする意欲が湧いてくる。(給食)

野菜の成長を記録しよう!

町の自然観察に行き、野菜の本を観たり、見たりする。(観察の記録)

子どもの気付きが花が一輪、葉もあるね。収穫のころはこんな花が咲く、葉の形などいろいろの気付きがある。

収穫を記録しよう!

収穫した野菜は給食さんに調理してもらったが、本を見たことで野菜の半端や葉にも気付きがわかった。

そこで調理してもらった子どもたちと一緒に野菜を食べてみることにした。

子どもの気付きが

葉、白いね

葉を食べてみよう!

子どもの気付きが

ピーマンの葉を食べてみよう!

子どもの気付きが

葉を食べてみよう!

子どもの気付きが

葉を食べてみよう!

【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の活用】
子どもの様子、写真に幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を当てはめる事で、子ども達が学んでいる、経験している事を小学校の先生にも分かりやすく!

【子どもの姿】

- ・どのような経緯で野菜を植える事になったのか
- ・育てていく中での気付きや言葉
- ・収穫後の取り組み(調理して食べる、図書館で調べるなど)

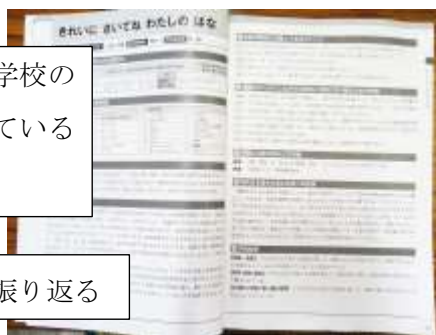
ドキュメンテーションを読んだ教諭の感想

- ・このような資料を見させていただくとどのように1年生で引き継いでいけばよいのかがよく分かります。こども園での活動の中で育ってきている姿を小学校では、どの教材、どの教育活動でさらに伸ばしていくのか考えていきたいと感じました。活動した時の子ども達の反応や言葉などカードなどで小学校に少し持ち上がってくることができたら、それを使って学習を重ねていけそうです。(可能ならば・・・ですが)
- ・幼児期の体験活動のすばらしさを感じます。活動を通しての子ども達の気付きや育った姿を生かせるようにまた連携させて下さい。資料提供もありがとうございます。
- ・野菜の栽培からでなく、土作りから始まり、食育、調べ学習、観察、種取り、また栽培とずっと繋がっていて素晴らしい活動だと思いました。
- ・更に広げるとしたら、今回選ばれなかった野菜についても調べたり(来年への意識づけ)、秋以降に育つ野菜について計画してみたり(季節によって栽培できる野菜の違いを知る)のもよいのではないかと思います。

小学校の指導書と照らし合わせてみると・・・

園の活動と小学校の活動は繋がっている部分がある。

育てた植物を振り返る



小学校1年生の教師用指導書

自分達で世話をする。

成長の様子や変化に気付く。



小学校2年生の教師用指導書



「きれいにさいてね わたしのはな」

学校での活動は・・・(教師用指導書「せいかつ(上)」からの抜粋)

◆単元の目標

アサガオなどの植物を育てる活動を通して、植物が育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、育てる植物に合った世話の仕方や、植物が自分と同じように生命をもっていることや成長していることに気付き、植物への親しみをもち、大切にできるようにする。

(5) 考察

園での活動から「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を知ってもらうため、園で制作しているドキュメンテーションを小学校に届け、教諭に回覧等してもらうことで、園での学びの基となる活動の姿や成長の相互理解に繋がっていくのではないだろうか。

（６）まとめ

- ・越知町では毎年、園小中の公開保育や授業に互いの教諭が参観し合っているが、なかなか協議にまで参加することが難しかった。しかし今年度、午後からの研究協議に小学校教諭２名が参加していただけたことにより、園の子ども達の見取り方や気付きを協議の中で共有することができた。また、植物の栽培について園と小学校の生活科での様子を伝えあうこともでき、子ども達への理解が深まった。今後も引き続き、できる限り保育の場面を参観してもらい、引継ぎをよりスムーズに行えるようにしていきたい。



- ・今回は、栽培活動だったが、それ以外にも交流授業などを通じていろいろな活動を伝えあう場や情報交換ができる場を持てるように継続していく。話し合いの回数や時間を増やすことは難しいが、打ち合わせや振り返りの時間などを利用して、日々の活動や保育のねらい等も知ってもらい、相互理解ができることを増やしていきたい。
- ・年長が小学校に園での取り組みを伝える方法として、ドキュメンテーションを利用した。一歩踏み込んだアプローチをした事で、意見やアドバイスをもらったり、園の取り組みにプラスしたりして双方からの応答ができた。今後も仕事量を増やすのではなく、普段作っている物を利用し言葉の情報交換だけでなく互いが分かり合えるよう、ドキュメンテーションを活用していきたい。この研究では相互の理解について探っていった。これを機に園側が小学校の理解に努め町単位での統一した教育方針で子ども達が育っていけるよう目指していきたい。



3. 研究への取り組み（令和6年度ブロック別研修）

（1）研究にあたって（研修目標の設定理由）

- ・子ども達は元気で活発な姿はあるが、友達との関わりの中で、自分の思いを言葉で伝えることが苦手だったり、人の話を聞けなかったりするため相手の思いが分からずに、問題にぶつかっても解決できない子どもが増えたように感じる。
- ・遊びには興味があるものの遊び込めず、すぐにやめてしまったり、また自信がなく友達に自分の思いを発信できずにいたりする姿がある。



自分の興味・関心をもって、友達と関わりながら色々な経験をする中で共有・共感できる体験を重ねたい。また、保育者や仲間に認められることで自信をもって発信する力をつけてほしい。

（2）研究の取り組み

4月…子どもの姿から良さや課題を考案	10月…2歳児園内研修と協議
5月…今年度の研修目標の設定	11月…3・4・5歳児クラス公開保育と協議
年間計画の作成、親育ち支援研修	12月…1年間の振り返り（研修目標に基づいた成果と課題の振り返り）
6月…5歳児園内研修と協議	
7月…3歳児園内研修と協議	2月…13ブロック交流会への参加
9月…1歳児園内研修と協議	

（3）研究内容と子どもの姿の変容

《3歳児》子どもの姿を受けて（環境構成と援助）

- ・保育者間でクラスの子どもの様子を伝え合った際に、ストローを重ねて使っていることを聞き、太さの違うストローを数種類用意した。
- ・忍者ごっこで作った敵を、初めは床に置いて倒していたが、高さを出すために台を置いたり、忍者屋敷のような家を作ったりして倒すスペースを用意した。
- ・アイス、ケーキ屋さんの前に机を用意し友達と一緒に作れる十分なスペースの確保をした。
- ・子ども達の作った物を認め、作る過程（使う素材、子どものアイデアなど）も知らせて、友達の作った物にも気付けるように関わった。

子どもの変容



- ・忍者ごっこで大小のストローを組み合わせて吹き矢を試し、やってみる姿があった。
- ・自分で敵を作って遊びたいという気持ちに変わっていった。
- ・友達が作ったアイスやケーキを保育者や友達と食べ、一緒に楽しむ姿に繋がった。
- ・“私も（僕も）作ってみる！”という気持ちにつながり真似して試してみたり、自分なりの工夫を取り入れたりしながら作るようになった。

《4歳児》子どもの姿を受けて（環境構成と援助）

- ・子どもがピザのトッピングをイメージしやすいよう、ケント紙や和紙を色別に分けて設置した。
- ・作ったピザをレンジで焼こうとする姿があったため、窯を作った。
- ・自然物（どんぐり・松ぼっくり・数珠玉）を使いやすいように種類に分けて置いた。
- ・廃材を素材別に分けて見やすいように設置した。
- ・順番を待たないと座れない事があったため、製作コーナーの場所を広げた。

子どもの変容



- ・町内散策で体験したピザ作り体験を振り返り思い出しながら、具材に見立てた素材や秋の自然物をトッピングしたり出来上がったピザを焼いたり、ピザパドルを作ったりして、お店屋さんやレストランごっこ遊びが深まっていった。
- ・友達とイメージを共有しながら遊ぶ姿が多く見られるようになった。
- ・作りたい物が形になる喜びを共に感じることができ、それを見た他児にも興味が広がった。

《5歳児》子どもの姿を受けて（環境構成と援助）

- ・「お店屋さんには看板がある」と看板作りが始まり、子ども達同士で店の名前や飾りたい物を決めた。
- ・友達とイメージを共有できるように話し合う場を作った。
- ・子ども達のイメージが広がるように声をかけ、必要な物（キラキラの紐・キャラクターを描いた紙等）を用意した。
- ・友達同士で一緒に書いたり作ったりできるように大きめの画用紙を用意し、スペースを作った。

子どもの変容



- ・好きなキャラクターを決めることで共通のイメージがもてたり、同じ場で一緒に書くなどの友達との関わりを楽しんだりする姿があった。
- ・文字を書く、飾りをつけるなど個々で行うことも多かったが、自分の得意なことを生かし同じ目的に向かい看板作りが出来た。
- ・作った物を認め周りにも伝えることで自信になり、方法を伝えることで、最後まで自分でやってみようとする姿に変わった。

- 前日の姿
- ・連日の雨で園庭で遊ばず、室内遊びが続いたため、体を動かして遊びたい子どもが多かった。
 - ・忍者がやっつける悪者を、段ボールや画用紙、毛糸などを切って段ボールに貼って作り、忍者になって手裏剣を投げたりストローで吹き矢を作って遊んだりしていた。
 - ・段ボールを丸めたケーキに飾り付けをすることを楽しんで作り、友達に食べてもらっていた。
 - ・自分の好きな役になってままごとをしたり、お弁当を作っておでかけをしたりしていた。

本日のねらい（◎）と内容（・）

◎身の回りのことを自分でやってみようとする。

- ・遊んだ後の片付けや手足の汚れに自分で気付いて着替えたり、きれいにしようしたりする。

◎色々な素材に触れ、好きな物を作る楽しさを味わう。

- ・画用紙やシールなどの身近な素材に触れ、切ったり貼ったり、試してみたりする。
- ・保育者や友達と、自分で作ったものを使って遊ぶ。

◎保育者や友達と一緒に遊んだり、関わったりしながら好きな遊びを楽しむ。

- ・保育者や友達と一緒に、しっぽ取りなどで体を動かしながら簡単なルールのある遊びをする。
- ・保育者や友達と、土や泥、水に触れる中で自分のやってみたいことを試したり、思い思いの物を作って遊んだりする。

生活の流れ

8：30

登園
好きな遊びをする

- ・保育者や友達と挨拶をする。
- ・持ち物の始末を自分でしようとする。
- ◆一人一人と挨拶を交わしながら、健康状態の把握をする。
- ◆自分で荷物の始末をやろうとする姿を見守りながら認めたり出来ないところは一緒にやったりする。

9：00

好きな遊び
・しっぽ取り
・製作遊び
・砂、泥遊び
・ままごと 等

- ・保育者や友達と一緒に好きな遊びをする。
- ★必要な遊具や用具を自由に使えるように用意しておく。

11：00

片付け・昼食の準備

- ・保育者や友達と一緒に片付ける。
- ◆子ども達が片付けをしている姿を認め、褒めながら保育者も一緒に片付ける。
- ◆また明日も遊びたい、という気持ちで片付けができるように言葉をかける。

11:20 給食

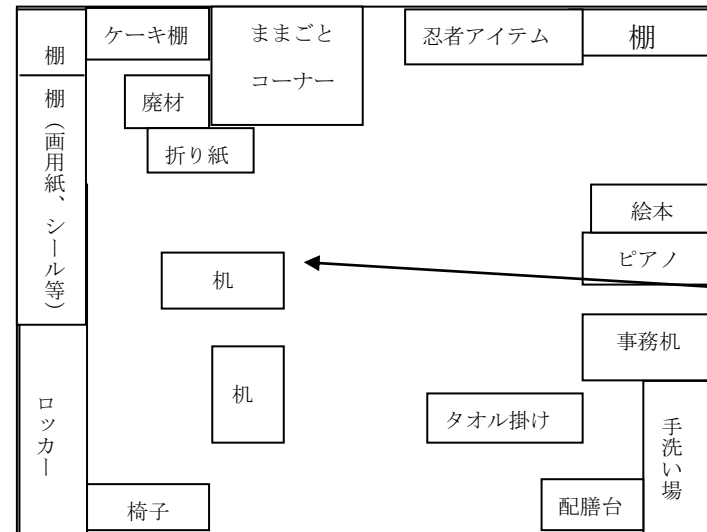
12:50 午睡

14:30 起床

15:15 おやつ

16:00 降園

3歳児 りす組 11月29日（金）



（室内）

保育者や友達と一緒に遊ぼう

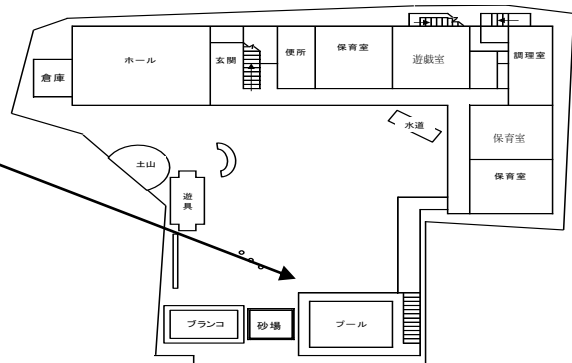
- ・土をすくってざるに入れてさら粉を自分で作ろうとしたり、保育者と作ったりする。
- ・コップやお椀に土と水を入れて混ぜ、飲み物に見立てて保育者に飲んでもらうのが嬉しい。
- ・土と水を混ぜて泥を作り、感触を楽しんだり、丸めたり工夫して遊ぶ。
- ・友達と遊ぶ中で自分と思いが違う時に、自分の思いを通そうとしていざこざが起こる。
- ・保育者や友達と一緒に鬼ごっこやしっぽ取りをする中で、逃げたり鬼になって追いかけたりすることも面白い。
- ・自分の好きな役になって友達と一緒にごっこ遊びをする。
- ◆一人一人の楽しんでいる様子や感じていること、気付きに共感したり、その場で一緒に作ったりしてじっくり遊べるようにする。
- ◆友達の遊びに興味をもっている様子を受け止め、保育者が誘ったり、一緒に「いれて」と言ったりしながら、遊びに入るきっかけを作っていく。
- ◆思いが衝突した時には保育者が仲立ちとなり、互いの気持ちに寄り添い、相手の気持ちに気付けるようにそれぞれの気持ちを代弁しながら丁寧に関わっていく。
- ◆相手に思いが伝わらず困っている時には保育者が仲立ちをして、伝え方（言葉）を知らせたり相手が気付くように働きかけたりして上手く伝えられるようにする。
- ◆友達と一緒に遊ぶ楽しさが感じられるよう、友達の様子を知らせたり一緒に遊んだりする。
- ◆安全に配慮しながら子ども達が体を動かして遊べるようルールを確認していく。
- ◆友達とイメージを共有しながらごっこ遊びを楽しめるように言葉のかけ方を工夫し、保育者も一緒になって遊ぶ。
- ★ざる、お皿、コップ、スプーンなど道具を自分で選んで遊べるように、準備しておく。
- ★水を使えるように、タライに溜めておく。
- ★明日もまた遊べるように、出来上がった物を置く場所を用意しておく。

・幼児の姿 ◆保育者の援助 ★環境構成

作って遊んで楽しもう

- ・身近な素材や道具を試してみようとする。
- ・保育者や友達が自分と異なる素材や道具を使っていることにも関心をもち、自分でも試したり使ったりしてみようとする。
- ・冠やブレスレット、忍者アイテムやケーキなど、自分の作りたい物を形にすることを楽しむ。
- ・はさみやテープ、ボンドなど、用具の使い方のルールに気を付けながら使おうとする。
- ・ダンボールを丸めてケーキを作ったり、友達に食べてもらったりすることが嬉しい。
- ◆自分なりに作っている様子を見守りつつ、援助が必要な場面ではさりげなく手伝うようにする。
- ◆子ども達の「出来た！」の声に反応して作った物を認めたり、使っている素材、友達の作った物にも気付けるように声を掛けたりしていく。
- ◆子ども達の自分で作りたい気持ちを大切にしながら、難しい部分は保育者が一緒に作り、やり方を伝えていく。
- ◆保育者も一緒に作る中で、一人一人の気付いたことを言葉にしたり、友達のしていることを知らせたりしながら、同じ場で遊んでいる子ども達の関わりがもてるようにする。
- ◆必要な材料や用具を提案したり、アイデアを出したりしながら子どものやってみたいこと、試したいことを形に出来るようにしていく。
- ◆道具の取り合いや思いのすれ違いで言い合いになった時は、子ども一人一人の思いを受け止め、保育者が互いの気持ちを聞き、言葉で伝えられるように援助する。
- ◆椅子に座ってハサミを使うこと、ボンドの使い方等の約束事や用具の使い方も知らせていく。
- ★子どもがイメージしやすいように様々な素材で大きさや形の違う物を用意し、（画用紙、シール、ペン、テープなど）じっくりと作ることができるスペースを確保しておく。
- ★広告紙や不織布など、子ども達が扱いやすい大きさにしたり、選ぶことができるように種類を構えたりして、分かりやすいところに出しておく。

（園庭）

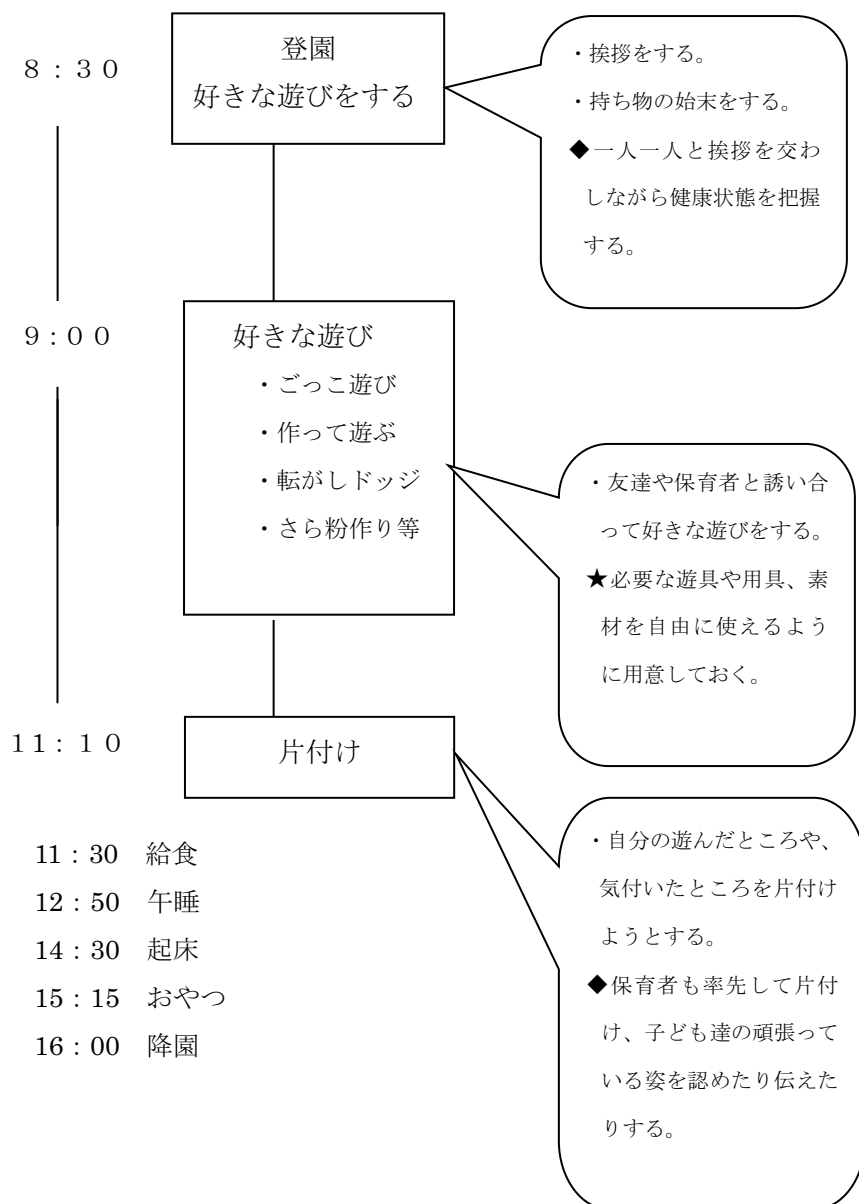


- 前日の姿
- ・絵本や図鑑を見て作りたい動物のイメージを友達や保育者に話しながら、廃材を使って作っていた。
 - ・作ったピザを、釜で焼く為にピザパドルを作ったり「ピザいりませんか？」とピザ屋さんごっこを楽しむ姿があった。
 - ・数珠玉でネックレスやカチューシャを作り、出来た物を身につけてごっこ遊びを楽しんでいた。

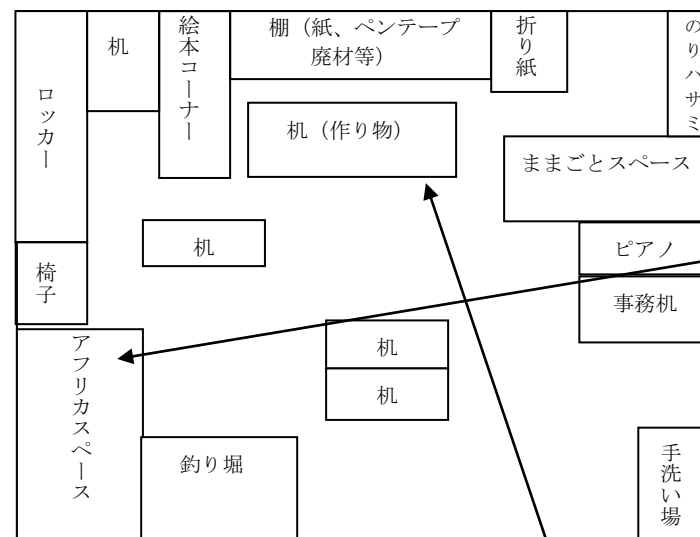
本日のねらい（◎）と内容（・）

- ◎身近な素材や秋の自然物を使ってイメージした物を作り、表現することを楽しむ。
- ・お店屋さんごっこの物作りを楽しむ
- ◎友達や保育者と関わりが深められるよう、一緒に物作りや簡単なルールのある遊びをする。
- ・気の合う友達と誘い合って転がしドッジをしたり、さら粉作りや遊具で遊んだりする。
 - ・自分の思いや考えを相手に分かるように伝えたり、友達の思いを聞こうとしたりする。

生活の流れ



4 歳児 いるか組 1 1 月 2 9 日 (室内)



～友達と一緒に～

- ・友達と一緒にお店屋さんごっこの品物作りを楽しむ。（剣巻き、ピザ、ケーキ、カチューシャ、ネックレス、魚、動物等）
- ・自分が見た物や、調べた物を思い出しながら作る。
- ・出来た物を身に付けたり、飾ったりして見せ合う。
- ・友達と動物や品物を作ることが楽しい。
- ・友達のしている遊びを自分の遊びに取り入れて楽しむ。
- ・友達と教え合いながら作ることを楽しむ。
- ・自分で作ることが出来ない子もいる。
- ・物の貸し借りやイメージしている物が違うことで、言い合いになる。
- ・友達と一緒にさら粉作りや泥団子作りを楽しむ。
- ・友達と一緒にルールのある遊びを楽しむ（転がしドッジ、かくれんぼ）
- ◆保育者も作る物のイメージが膨らむように友達がしていることを伝えたり、一緒に作ったりしながら遊びを楽しみ、必要に応じて言葉掛けをしていく。
- ◆友達と関わりながら遊ぶ姿を見守り、その姿を認め、保育者も一緒に楽しむ。
- ◆相手に思いが伝わらず困っている時には、自分の思いや考えを言葉で伝えられるよう保育者が仲立ちをし、援助する。
- ◆泥団子や、さら粉作りを友達と一緒に試したり、上手く作れるように教え合ったりしながら、保育者も一緒に楽しむ。
- ◆遊び方やルールに思い違いがあった場合には、子どもの思いを受け止め、どのようにしたら楽しく遊べるか話し合って解決できるようにする。
- ★素材の種類や大きさごとに廃材を置いて想像しやすいようにしておく。（空き箱や、トイレットペーパーの芯や容器等）
- ★必要な材料を用意する。（ふるい、ボウル、スプーン、入れ物等）
- ★自分の物が分かるように名前を書いた入れ物を用意しておく。

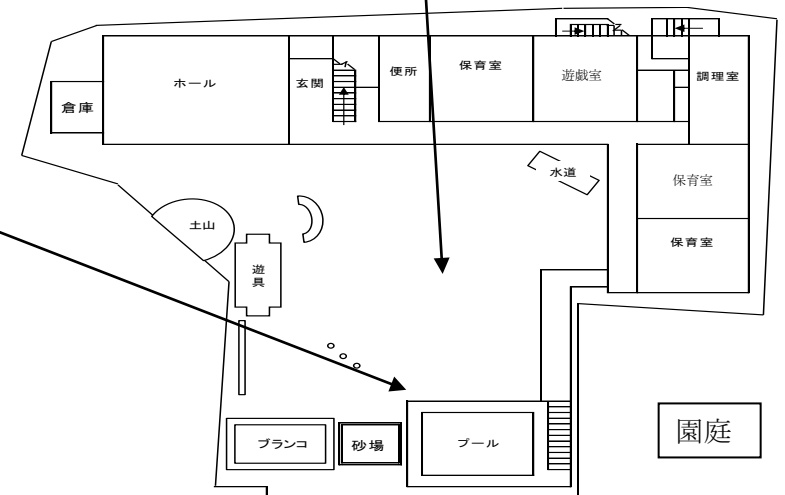
- ・幼児の姿 ◆保育者の援助 ★環境構成

～物作りを楽しもう～

- ・剣巻きを保育者や友達に教えてもらいながら作る。
- ・町内散策で体験したピザ作りを思い出しながらピザを作る。
- ・数珠玉とストローを使ってアクセサリーを作る。
- ・廃材を使って自分のイメージした物を作る。
- ・友達が作っているのを見て真似をしたり、作り方を教えてもらったりして作る。
- ◆子ども達が取り組んでいる姿や、工夫したところを認めていながらイメージが膨らんでいくようにする。
- ◆自分の作りたい物を上手く作れない子どもには出来ない所を手伝ったり、アドバイスをしたりする。
- ◆アイデアを伝えたり、気付きを共有したりしながら友達と繰り返し楽しむ姿を見守る。
- ◆色々な素材を使い、楽しんで作る姿を見守る。
- ◆周囲の子の作った物を見ることで興味を広げ、作った作品を使って遊んだり大事にしたりする気持ちを認める。
- ◆子ども達が作った物を認め、褒めて自信に繋げていく。
- ★それぞれの遊びが混ざらないように、場の環境を整える。
- ★子どものイメージが表現しやすいように様々な大きさや形の素材を用意し、じっくり作る事ができるスペースを確保しておく。
- ★子ども達の表現や工夫を認め、興味をもっている子どもが仲間に入れるように、遊具や用具の数、種類を見直して環境の再構成をする。

～体を動かそう～

- ・戸外で友達とかくれんぼや、転がしドッジ等の簡単なルールのある遊びを楽しむ。
- ・友達と鬼ごっこをして走ることを楽しむ。
- ◆保育者も遊びに入りながら、楽しく遊べるような雰囲気作りをしていく。
- ◆子どもから出てくる言葉を取り上げ、子どもの意見を尊重し、一緒に遊びが進められるようにしていく。
- ★安全に遊べるように周りに危険な物はないか園庭の環境を確認しておく。



前日の姿

- ・友達と一緒にひらがなや絵などを描いて、お店屋さんごっこの看板作りをしていた。
- ・友達と一緒にどんぐり転がし台に釘を打ったり、当たりの場所を決めたりしてどんぐりやビー玉を転がして遊んでいた。
- ・広告紙の紙を丸めてカップケーキを作り、ボンドを使って自然物をトッピングする子や、レストランに食べ物を注文して友達と一緒にごっこ遊びを楽しんでいた。

本日のねらい（◎）と内容（・）

◎共通の目的に向かって、友達と一緒に考えたり、工夫したり、遊ぶ楽しさを味わったりする。

- ・友達と一緒にお店屋さんごっこの商品や看板作りをする。
- ・ルールを確認したり、パスをしたりしながらドッジボールをする。

◎秋の身近な自然に親しみ、遊びに生かす。

- ・友達と一緒にドングリ転がしを作ったり、自然物を使い食べ物にトッピングをしたりする。

生活の流れ

8：30

登園

好きな遊びをする

9：00

好きな遊び

- ・ごっこ遊び
- ・お店屋さんごっこ
- ・ドッジボール
- ・泥団子作り

11：10

片付け

11：30 給食

12：50 午睡

14：30 起床

15：15 おやつ

16：00 降園

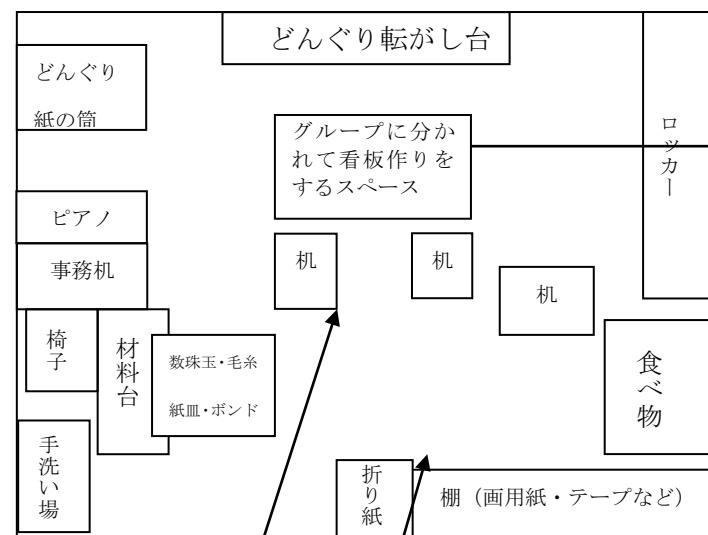
- ・挨拶をする。
- ・持ち物の始末をする。
- ◆ホワイトボードに今日の予定を掲示しておき、子ども達が見て、確認できるようにする。

- ・友達と誘い合って好きな遊びをする。
- ◆昨日までの遊びの続きができるような環境を整えておく。

- ・自分の遊んだところや、気付いたところを片付けようとする。
- ★事前に片付けの時間を知らせておく。

5歳児 きりん組 11月29日（金）

（室内）



～お店屋さんごっこに必要な物を作ろう～

- ・自分のイメージした物や必要な材料を選び、お店屋さんの商品を本物らしく作ることが楽しい。
- ・友達と字を教え合ったり見せ合ったりしながら、お店屋さんの看板作りや飾り付けをする。
- ・レストランやマクドナルドごっこ遊びの物作りなど、友達と一緒に表現することを楽しむ。
- ・友達と意思の食い違いや言葉が足りないことでいざこざになる。
- ◆子ども達が作りたい物を選んで作れるように用具や材料を用意しておく。（ボンド・大きさの違う画用紙・セロテープ・キラキラ紐）
- ★それぞれの遊びの場が保てるように位置を考え、作った物で遊びの続きができるようにスペースを確保する。
- ★机にシートを敷いたり、お店の雰囲気を出したり、ごっこ遊びができるように環境を作る。

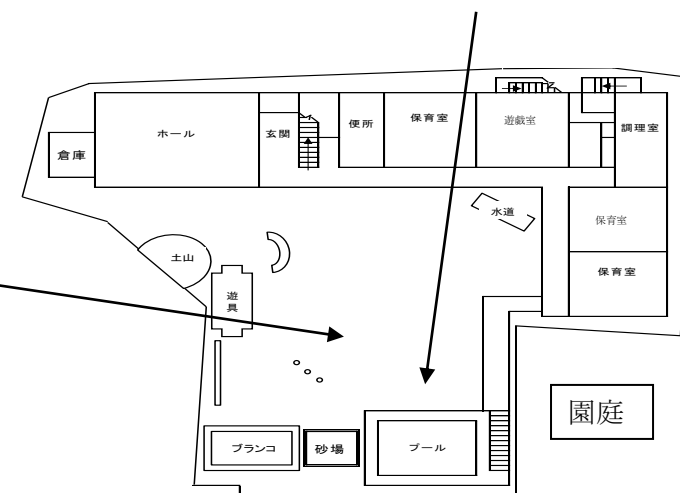
～体を動かして遊ぼう～

- ・友達を誘い、人数やメンバーの組み合わせを考えてドッジボールをする。
- ・友達や先生を狙ってボールを投げたり、逃げたり、パスすることを楽しむ。
- ・負けたくない気持ちから自分の有利な判定をしたり、友達といざこざになったりする。
- ◆いざこざが起こった時には、自分の思いを伝えようとする姿を見守ったり、言葉を足したり、周りの子にも意見を聞きながら声掛けをする。
- ◆悔しい気持ちに共感しながらも、「大丈夫、当てて中に入れるよ」と励まし気持ちの切り替えができるようにする。
- ◆他のクラスとも連携をとり、園庭でルールのある遊びを安全に楽しめるようにする。
- ★自分達でラインを引いて遊びを始められるように、すぐ取り出せる所にライン引きを用意し、ボールなども使いやすいように準備しておく。

・幼児の姿 ◆保育者の援助 ★環境構成

～自然物を使って遊ぼう～

- ・どんぐり転がしをどうやって作るか考え、一緒に作ろうとする。
- ・ゴールの場所を決めたり、釘を打ったりすることが面白い。
- ・ドングリ転がしなどでできたもので友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。
- ・泥を使いドングリをのせたクッキーや泥団子を作ることが面白い。
- ・友達と材料になるものを探し、イメージしていることを伝え合いながら作って遊ぶ。
- ・互いのしたいことを伝え合い、折り合いをつけながら遊びを進めていこうとする。
- ・遊びに必要なルールや決まりを友達と話し合って作り、一緒に楽しむ。
- ・うまくいかず諦めそうになったり、雑になったりする子どももいる。
- ・牛乳パックで作ったケーキに、ドングリや自然物をトッピングすることが面白い。
- ◆同じ場で友達と会話を楽しみながら製作する姿を認め、友達同士を繋いでいく。
- ◆必要な材料や用具を保育者も一緒に考え、アイデアを出し合いながら子どもの思いが実現できるようにしていく。
- ◆友達のしている遊びに刺激を受け、自分の遊びに取り入れたり、試したり工夫したりして遊ぶ。
- ◆相手に思いが伝わらず困っている時には、保育者が仲立ちをし、気持ちの整理をしながら言葉で伝えられるようにする。
- ◆友達の意見に流されたり、伝えることが苦手な子どもも自分の思いを出せるよう、保育者があえて「どうしたいか」を聞いて、自分の思いを言葉にすることや、友達に思いを聞いてもらう経験ができるようにする。
- ★自然物に興味をもてるように、絵本を置いたり、写真を貼っておくなど環境作りをする。
- ★友達と遊びの場を作れるように自然物（どんぐりや葉っぱ、千日紅など）や大きめの段ボール、クギ、かなづち（石）などを用意しておく。
- ★大きなタライにサラ粉を集めておいたり、友達同士で話をしたり関わりがもてるように準備しておく。



（４）公開保育を行って

- ・子どもの遊ぶ姿から「何を楽しんでいるのか」を掘り下げ保育を見てもらうことで、自分では気付けない子ども達の様子や、保育者の援助がどのように子ども達に響いているのかを知ることができ、各年齢での大切にしたい育ちや一人一人の内面を丁寧に考える機会となった。
- ・楽しんでいること（場面）をもとに、各領域のねらい及び内容にあてはめて考えることで、今したいと思っていることや興味をもちそうな遊びを考えることができ、日々の環境設定を深めていくことが出来た。
- ・教材においても色々なクラスの園内研修を見たことで、年齢に合った教材の大切さや子どもに必要な遊び場・材料等、環境構成の大切さを子ども達の姿から考えて用意することができた。

（５）保育者の意識や保育実践の変容

- ・研修を重ねたことで、各クラスの様子や担任の思いや願いが分かり、取り組みへの士気が上がった。また、他の保育者や各学年の環境構成を見ることで参考になったり、素材選びの引き出しが増えたりして、子ども達一人一人に対しては、深く楽しんでいることや友達関係などを理解することが出来るようになった。
- ・子どもを見るポイント（事実・表情・言葉・視線）に注目し、内面を推し量りながら、子どもの姿を言葉にして共感するとともに、保育者も一緒に遊びを楽しみ一人一人の思いを受け止めていく言葉かけを大事にするようになった。
- ・子ども達の興味・関心を探りながら一緒に遊ぶ中で自由に選択して遊べるよう環境を整えたことで、好きな物を作ったりそれを使って遊んだりする姿が見られ、子どもが遊び込めて遊びが広がる大切さが分かったので、環境構成の工夫を行った。
- ・保育者同士の連携（協力・話し合い・共有）が、子ども達の遊びや育ちにおいて改めて大切だと感じ、意識するようになった。
- ・無理な目標設定をせず、子どもの姿や発達に応じた具体的な環境や関わり方が大切だということが分かり、さらに子どもをしっかりと見ていくようになった。



(6) 課題と要因

- | | |
|--|--|
| ・ 子どものしたい遊びと保育者が経験させたいことの不一致やバランス、遊びの広がり | ⇒ ・ 子どもが興味をもつことや生活経験の違い
・ 保育者の思いが先行し見通しをもつ難しさ |
| ・ 満足して遊び込めるような言葉がけ
(心が満たされない子どもの姿) | ⇒ ・ 保育者が子どものイメージしている事や求めていることを感じ取る難しさと、言葉で表現する力の弱さ |
| ・ 遊びの変化に応じた臨機応変な環境の再構成
(必要に合わせた材料の用意や友達と一緒に
する場作り) | ⇒ ・ 環境構成の考案不足で、子どものイメージに近い素材準備の対応が遅れ、意欲のタイミングを逃す |
| ・ 子ども自身の認められる経験が少ない
心が不安定で素直に受け止められず、友達
にも向きにくい | ⇒ ・ 色々な事を体験する場や、安心感や満足感が得られるような経験が少ない |

(7) 来年度に向けて

① 子どもの姿から、さらに伸ばしていきたい力

- ・ 年齢や発達に合わせて環境を整える中で、自分のしたい遊びを十分に楽しみながら考えたり工夫したりして、満足するまでじっくり遊べるようになる。
- ・ 興味や関心のある遊びを通して友達との関わりを深めながら、共有・共感できる体験を重ねていく。
- ・ 自分の思いを言葉で伝えたり、相手の思いを聞いて受け入れたりしながら、認め合える友達関係を築いていく。
- ・ 安心できる保育者との信頼関係により、子どもの興味があることや好きなことから成功体験を積み重ね、自信をもったり自尊感情を味わったりしていく。

② 研修体制・保育実践・保育の質に関すること

- ・ 園全体でなくても部署や担当、乳児組や幼児組など意見の出しやすい環境を設定し、一人一人の興味関心の理解や各年齢でどのようなことを経験させたいか、教材や子どもの見取り方などの共通認識を目指す。
- ・ 子ども達の興味を記録し見直していくことで、自ら試したり考えて楽しく学んだりしていけるような意図的な環境作りをし、遊びが広がっていくようにする。また、子どもと一緒に思い切り遊びながら楽しさを共有し、友達の良さに気付きながら互いに認め合える関係を築くことができるような、保育者の援助や環境構成を考えていく。
- ・ 他園の公開保育などで子どもへの声の掛け方や環境構成、協議のまとめ方などを、参考にしたり取り入れたりして、学ぶ機会を多くもつようにする。

4. 今年度の取り組み

(1) A L T 訪問 (4・5 歳児組)

以前から5歳児が取り組んできたA L T訪問だが、今年度から4歳児にも導入。色や動物などの名詞を学んだり、歌付きの手遊びを教えてもらったり、クリスマスなどの季節のイベントも取り入れながら、時間の短縮と分かり易い内容を取り扱うことで、4歳児なりに楽しんで取り組むことができ、5歳児へと繋げていく初めの一步となった。



(2) バス散歩 (3・4・5 歳児組)

保育園が認定こども園となり、幼稚園施設が子育て支援センターとして利用されるようになったことから、支援センターの活用方法の一つとして幼児組が年6回程度バスで遊びに行っている。天候や感染症などで取り止めることもあるが、広々とした場所で目新しい遊具を楽しむ姿があり、子ども達にプラスになっているのを感じている。今後も可能な範囲で子育て支援センターを活用していきたい。



(3) 園の研修 (中山先生・久我先生)

これまでも保育園・幼稚園共に様々な研修に取り組んできたが、I T 社会となってきた今、非認知能力の研修に加え今年度からドキュメンテーションについても中山先生の研修を受け、多忙な保護者に対して日々の子どもの姿や自分達の取り組んできたことを、いかに分かり易く伝えていくかということを考えながら取り組んできた。

また、ここ数年課題となっている愛着や親子関係についての久我先生の研修では、若手が重点的に学ぶ機会となった。子どもの行動からだけではなく、難しい家庭や親子関係などの背景を考えながら見取することで、子どもの抱えている問題や課題が分かり、適切な援助に繋がっている。



4. 行事の様子（こども園となって）



総合避難訓練



あゆの放流



運動会



交通安全教室



防火パレード



越知町福祉大会



秋のえんそく



ピザ作り体験



芋ほり



越知町文化祭

5. おわりに

昨年度まで越知町内には保育園と幼稚園があり、それぞれの機能と役割を果たしながら子ども達を見守ってきたが、今年度4月から2園が統合し、町内で唯一の就学前教育施設としての認定こども園おちの子となった。こども園となったことで保育教育が一体となり、職員の学ぶ機会も増えた。またこども園移行を機に、幼児組では副担任制が導入された。この一年は、職員同士の立ち位置や仕事の割り振りなど試行錯誤しながら、主担任・副担任・支援保育者の中で、子どもたちの保育教育にあたってきた。

今年度の取り組みの中で大きかったものとして、「幼児教育研究協議会」と「ブロック別研修会」があった。共に園の子どもの姿から、現状を見直し課題を見つけ、職員間で要因や今後に向けての取り組みを考えていった。行事も多く日々多忙な中での研究や協議には難しい部分もあったが、子どもの姿をじっくり見取り考察していくことで、見えていなかった子どもの内面や本質を捉え直すことができ、保育者としての見る目を養うことができた。

園では第三保育期となり、来年度への準備も始まっているが、年々出生数が減り入園希望者も減少していく傾向である。だからこそ、保護者が安心して働くことができる環境作りを心掛けていくと共に、町内唯一のこども園として、子ども一人一人が保育者や友達との色々な体験を通して、嬉しさや楽しさ、悔しさやもどかしさなどを沢山経験し、心豊かに伸び伸びと育っていくことができるよう取り組んでいきたい。また、相談しあえる保育者同士の繋がりを大切にし、子どもをしっかりと見取りながら、職員間で話し合う時間を確保し、保育教育の更なる向上を目指していきたい。

